

2013年10月22日

非血縁者間骨髄移植・採取認定施設
移植認定診療科 連絡責任医師 各位
採取認定施設 採取責任医師 各位

(公財) 日本骨髄バンク
医療委員会
ドナー安全委員会

骨髄移植直後に患者さんが脳出血を併発した事例について (続報)

2013年1月15日付けで、患者さんが骨髄移植直後に脳出血を併発した事例に関して、情報提供しました。

その後、他の移植施設より予防法について検討依頼があり、医療委員会およびドナー安全委員会において検討しました。その結果、当該事例については、ヘパリンの濃度が直接的な問題ではないものの、今一度、マニュアルの再確認等をお願いすることとなりました。

つきましては、下記をご参照いただき、ご対応および関係者の皆様へご周知くださいますようお願いいたします。

【採取施設の医師の皆様へ】

- 骨髄採取マニュアル第四版(別紙1参照)では「**最終ヘパリン濃度は通常10単位/ml前後で用いることを推奨する**」としていますが、採取完了報告書(ハーベストレポート)(別紙2)に必ず最終ヘパリン濃度を記入し、何らかの事情により、ヘパリンの最終濃度が高くなった場合には、移植担当医師にその旨お伝えください。

【移植施設の医師の皆様へ】

- 採取完了報告書(ハーベストレポート)(別紙2)に記載されているヘパリン濃度を必ずご確認ください。
- ヘパリン濃度が高い場合や輸注中にAPTTが延長した場合の対応として、一部施設では下記のような対応を行っています。ご参考までに情報提供いたしますが、**輸注中は血圧を含め患者管理に十分に注意し、輸注スピードを守るなど、今一度ご確認ください。**
 - *骨髄液等のヘパリン濃度が高い場合には、血漿除去後に輸注を行う。
 - *輸注中にAPTTが延長した場合には、プロタミンを投与したことがある。

以上